青少年赤十字だより

令和３年４月10日発行　第62号

編　集：群馬県青少年赤十字指導者協議会広報部（日本赤十字社群馬県支部内）

〒371-0833　前橋市光が丘町32－10　TEL 027-254-3636　赤十字の活動を知りたい人は‥https://www.jrc.or.jp/chapter/gunma/

すべては“気づき”から始まる

コロナ禍の中で学ぶこと ～今、できることを実行する～

休校中の約2か月にわたり児童･生徒は多くのことを考え、学びました。前例のない事態の中、児童･生徒も教員も多くの新しいチャレンジをしたのではないでしょうか。コロナ禍での私たちのチャレンジのなかに、これからの新しい学校の姿、学び方のヒントを見つけ出すことができます。以前に戻りたい気持ちはありますが、実際は完全に元に戻ることは厳しい状況です。ウィズコロナの世の中に対応し、よりよくなるための方法を皆で考え、新しい価値を生み出すことが求められています。私たちは、こうした変化に柔軟に対応するためにも青少年赤十字の態度目標「気づき･考え･実行する」を実践し、赤十字の精神を学び続けていきたいと思います。

（群馬県立渋川工業高等学校　教諭　大須賀　裕美）

気づきを行動へ

群馬県立渋川工業高等学校　2年　木暮　快

「新型コロナウイルスの影響で、なかなか思うように行動できない中だからこそ、周囲への感謝の気持ちを持って、今自分にできることを考えよう。」休校明けに顧問の先生に言われた言葉を受けて、部長の私はできることを部員と相談しながら、今年度の活動を進めました。

最初に行った活動は、医療従事者に感謝の気持ちを伝えるメッセージボード作成でした。その他にも高齢者の心の支えになりたいという想いから、敬老の日に長寿を祝うメッセージカードの作成も行いました。手にして下さる高齢者の笑顔を思い浮かべながら、一枚一枚心をこめて作成し、完成したメッセージカードを市内の介護老人福祉施設に届けることができました。また、その他にも学校近くの学童保育との交流が行えない状況を鑑み、新聞紙を使ったエコバッグ、牛乳パックを使ったペン立てなども製作し、寄贈しました。会って交流することができなくても、工業高校の特性を活かした物作りを通してお互いの繋がりを大切にするという活動が行え、大きな達成感を得ることができました。今までは気づかなかったことが、新型コロナウィルスの影響で新たな視点に変わり、活動を拡げることに繋がっています。改めて「気づき･考え･実行する」ことは日々の生活に溢れていると実感し、継続している活動内容の見直しも行うことができました。例えばペットボトルキャップの回収についてさらに理解を深めてもらおうと、回収後の活用方法についてのプリントを作成し、各教室に掲示しました。その結果、全校生徒の意識が高まり、昨年度よりも回収数が増加しました。また、手の届かない場所の清掃を行うことで、全校生徒が快適に学校生活を送ることに繋がると考え、各教室の扇風機清掃にも取り組みました。一つずつプロペラを取り外し、埃と汚れを取り除き、きれいに拭き取った後に再び取り付けるという作業は忍耐のいる作業でした。しかし、きれいになっていく扇風機が増えていく度に充実感を感じることができました。今年度は、自分にできることを考え、実践し、課題解決につながる行動を生み出す活動が行えた一年でした。

これからも誰かのためにとの想いを大切にして、「気づきを行動へ」繋げていきたいと思います。

メッセージボード作成から学んだこと

群馬県立渋川工業高等学校　２年　野村　祐紀

昨年、新型コロナウイルスによる世界的感染が拡大しました。そのため全国の学校が一斉休校となり、部活動が3ヶ月ほど活動できない状況が続きました。休校期間中、私は「JRC部」として何かできることはないのかとひたすら考えていました。というのもJRC部は人と人との触れ合いが多い部活動です。そのため、人との触れ合いに制限がある今の状況での活動は、できることが限られています。募金活動を行うにしても外出自粛により人出は少なく、学童保育や老人福祉施設でのボランティア活動もお互いの感染を予防する観点からも行うことができません。今の自分たちには何もできることがないのかと諦めかけていた時、あるニュースに目が止まりました。それは中国のコロナ対応に追われている医療従事者が先の見えない日々で疲労困憊し、号泣している姿でした。その様子を見て「私たちがこうして休んでいる間にも、医療従事者の方々は十分な睡眠もとれずに一生懸命働いてくれている。何かできる事はないか。」と考えました。

分散登校で学校が再開し、今後の活動を考える話合いで私は休校中に考えていた医療従事者に感謝の気持ちを伝え、励ますことができるメッセージボードの作成を提案しました。心が和むように折り紙を使った装飾で飾りつけを行い、感謝の気持ちを込めた「ありがとうございます」の一言を書いたメッセージボードを部員全員で協力して完成することができました。

医療従事者の方々に直接お渡しすることができ、皆さんが喜んだ笑顔を見たとき、自分達も社会の一員であることを自覚し、お互いが支え合っていくことの大切さを実感しました。これからも今、自分たちに何ができるのかを考え、解決するためにどんな活動を行うかを主体的に考え、さまざまな活動でたくさんの人々と関わりながら、ボランティアの輪を広げていきたいと思います。

小学校・中学校 青少年赤十字活動紹介

～みんなの仲間が各地でがんばっています～

高田小学校のJRC活動

【富岡市立高田小学校】

本校では、縦割り清掃活動・縦割り班ドッジボール大会・あいさつ運動・募金活動などをJRC活動の一環として取り組みました。縦割り清掃活動では、班長が振り返り時に、班員のよい点を称賛し、班員が気持ちよく自主的な活動につながるようにしています。また、ドッジボール大会では、ルールを工夫して全校で取り組んだことで、下級生も楽しく参加できました。あいさつ運動や募金活動では、児童会役員が啓発して取り組んだことで、全校での積極的な活動につながり、思いやりの心を育てる活動になりました。

全校一心～思いがつながり、光りだす～

【太田市立城東中学校】

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う休校が明けると、「私たちにもできることはないか」と、中学生の視点からみずみずしいアイデアが次々に生まれ始めました。その中でも、全校が心一つにして取り組んだのが７月の募金活動でした。ウイルスと最前線で戦う人々を、感謝と激励を込めて支援したい。そんな一人一人の思いをつなげていくことで大きな波を生み出せた、価値ある活動でした。今後も、城東中生の温かな気持ちを生かした活動を続けていきます。

共に学校文化を築いていく

【草津町立草津小学校】

本校では、４月に児童会による１年生を迎える会とJRC登録式を全校で行っています。今年は感染症のため実施できずにいましたが、児童会と６年生が「わたしたちでできること」を考え、「お楽しみ会と登録式」を企画してくれました。赤い羽根共同募金やペットボトルキャップ回収とともに年間８万点を集めるベルマーク活動にも取り組んでいます。みんなが笑顔で学校生活を送れるように「あったか言葉」や「気づき考え実行したこと」の紹介カードを校内に掲示しています。「よりよい学校をみんなで作っていこう」と頑張っています。

花いっぱい活動で絆を深めよう

【沼田市立薄根中学校】

この活動は平成６年から始まり、今年で27年目となりました。花に囲まれた美しい環境をつくるため、種蒔きや水やり等の花の世話に全校生徒で取り組んでいます。写真は「親子花いっぱい活動」の様子です。学校に生徒、保護者、地域ボランティアが集い、花の苗を花壇やプランター、植木鉢に植え替えます。みんなで育てたマリーゴルドやペチュニアは、校内はもちろん公民館や市役所等の市内公共機関13カ所に配付したり、生徒全員で学校区内のお年寄りに届けたりしています。

元気に１日をスタート！あいさつ運動！

【千代田町立西小学校】

本校では週に一度、児童会本部による朝のあいさつ運動が行われています。運動を盛り上げるために作成した看板を持ちながら、元気よくあいさつをしており、気持ちの良い朝をむかえることができます。学校全体でも、「あいさつ先手」を合言葉に、自分からさわやかなあいさつをすることを日ごろから心がけています。また、高学年による帰りのあいさつ運動も行っており、ひとりひとりが責任感をもって取り組んでいます。これからもさらにあいさつで溢れる学校を目指して頑張っていきます。

花いっぱい運動

【渋川市立渋川北中学校】

本校の学校教育目標の一つに「豊かな心を持ち　助け合っていく生徒」があります。それを受けて、福祉委員会で「花いっぱい運動」を夏と冬の２回行っています。公民館や図書館、近くの幼稚園や保育所に、生徒がプランターに花を植え、届ける活動です。今年で７年目。各施設等では「今年もありがとうございます。大切に育てます。」という言葉をかけていただくようになりました。身近なボランティア活動を通して、豊かな心、助け合いの気持ちが育っています。

高等学校 青少年赤十字活動紹介

～みんなの仲間が各地でがんばっています～

新たな始まり

【群馬県立伊勢崎工業高等学校】

伊勢崎工業高校のJRCは生徒会活動として実施していましたが、令和元年には生徒会から独立しJRC活動が改めてスタートしました。部員が少なく「JRC同好会」からのスタートでしたが、令和２年度は部員が増え「JRC部」に昇格しました。

活動は、学校内の普段では手が回らない場所の清掃活動、発展途上国の子供たちにポリオワクチンを届けるペットボトルキャップの収集活動、目の手術の資金となる使い捨てコンタクトレンズケースの収集活動、募金活動などを主に行っています。

コロナ禍で学校外での活動が思うように出来ないなか、私たちが出来る社会貢献活動を考え、学校献血活動を22年振りに実施しました。１～３年から約100人の希望者を集めることが出来ました。１日に献血できる定員を超えてしまったため、今回は２・３年生に協力してもらい、200mL献血が８人、400mLが50人という成果を残すことが出来ました。

今後も「今できることを、気づき・考え・実行」して新たな伊勢崎工業高校JRCの歴史を創っていきたいと考えます。

活動を振り返って

【高崎商科大学附属高等学校　２年　須田　帆夏】

新型コロナウイルスの影響により、高校生協議会行事はWeb形式となりました。

Web形式は対面と比べてスムーズにいかない点もありますが、役員会では時間のロスがないように工夫して、話し合いを重ねました。リモートでも十分に意見を言い合えたので充実した活動だったと思います。印象深かったのは、12月に行われた県青少年赤十字高等学校研修会です。実践活動計画の作成方法を身につけた後、グループで活動計画を話し合いました。他校のメンバーと意見交換するのは久しぶりだったので、より意欲的に取り組むことができました。この計画作りの工程は自校でも生かすことができ、現在、清掃活動を計画しています。状況が良くなり、活動できるようになったらすぐに実行に移せるようさらに計画を練っていきたいです。

今年度は例年よりも活動が少なくて残念です。しかし、この状況によって生み出された医療従事者へお礼の手紙を書くことや感染予防を呼びかけるポスターの作成など自分ができる活動があると思うので、取り組んでいこうと思います。

全国高等学校総合文化祭に参加して

【前橋育英高等学校　３年　稲垣　美咲】

７月31日から10月31日まで第44回全国高等学校総合文化祭（2020こうち総文）が開催されました。今年度は新型コロナウイルスの影響で「WEB SOUBUN」という形になりました。日頃の部活動の取り組みを文章と写真で紹介しました。活動内容をまとめていると伝えたいことが本当にたくさんある事に気づいたので、レイアウトを工夫しながらその想いをページいっぱいにつめ込みました。

現地へ行って、全国の同じ思いを持ったメンバーと実際に交流することは出来ませんでしたが、Web形式で北海道から沖縄まで様々なボランティア活動を行っている高校生の姿を見て、良い刺激を受けました。また、Web形式での開催のため、部活動の仲間とも一緒にこうち総文を楽しみ、多くの学びを得ることが出来ました。各学校が紹介していた工夫を凝らした活動は、エネルギーにあふれていて自分自身もボランティア活動を頑張る高校生の一員でいられることをとてもうれしく、誇りに思いました。

オンライン国際交流に参加して

【群馬県立前橋女子高校　１年　本多　佑衣】

オンライン国際交流には、日本からは各都道府県、海外からはアジアとオセアニアの国と地域が参加しました。会話は英語でした。一日中ずっと英語を使う会議の機会はいままでに経験がなかったので刺激的でした。

最初に、それぞれの地域の個性豊かな文化紹介や〇×クイズで、お互いの自己紹介をしました。その後、ニューヨークの病院に勤める永井医師に新型コロナウイルスについてや、海外での生活についてお話を伺いました。続いて、グループに分かれて、各国のコロナ禍での生活の変化、偏見のない世界を作るために自分たちが出来ることについて話し合いました。

この交流会に参加して、新型コロナウイルスについて学んだり、話し合いで自分にはなかった意見を聞いたりして、自分の世界が広がりました。特に、海外の人の話が聞けたのがよかったです。さまざまな人のものの見方を知ることは、自分の思考を豊かにしてくれると思いました。また、社会で起きていることについて話し合うためには、普段から、ニュースに関心を持つ必要があると感じました。そして、考え、言葉にして伝える力も身につけることが必要だと思いました。

交流会での学びをこれからの生活に役立てていきたいです。

日本赤十字社群馬県支部では、メンバーの夏休みを利用して、赤十字や青少年赤十字に関する作文やポスターの作品募集を行っています。これは、各メンバーが青少年赤十字に関心をもち、活動に対する意欲を高めることを目的として実施しています。なお、入賞者には賞状と副賞を、応募者全員に参加賞を差し上げています。毎年実施していますので、ぜひ皆さん応募してください。

青少年赤十字「作文」コンクール入賞者

小学生の部

受賞区分	学　校　名	氏　名	学年	作　品　名
アンリー・デュナン賞	みどり市立笠懸小学校	礒　陽麻莉	6	平和のために
人道賞	前橋市立永明小学校	真柄亜弥花	6	子どもたちのためにできること
	館林市立第一小学校	豊泉　真歩	4	災害時における命と健康の守り方
JRC 賞	前橋市立永明小学校	山口ゆいこ	2	健康っていいな
	沼田市立利根小学校	髙梨　弦輝	5	平和が命と健康を守る
	明和町立明和東小学校	野口　絢羽	6	世界の子どもたちにできること

中学生の部

受賞区分	学　校　名	氏　名	学年	作　品　名
アンリー・デュナン賞	大泉町立南中学校	髙倉　美遥	2	世界の子どもたちのために私ができること
人道賞	高崎市立高松中学校	依田　望	3	「のりしろ」を強く、広く
	太田市立太田中学校	飯田夏乃葉	1	たった一つのランドセル
JRC 賞	前橋市立第六中学校	吉田　李星	3	苦しむ人を救うために
	伊勢崎市立宮郷中学校	渡辺隼太朗	2	笑顔が増えるために僕達が出来ること
	太田市立北中学校	島田　瑚子	3	ぐろーばる結

高校生の部

受賞区分	学　校　名	氏　名	学年	作　品　名
アンリー・デュナン賞	県立前橋南高等学校	宮澤　未来	1	私ができるボランティア活動
人道賞	県立前橋南高等学校	眞尾　祐花	2	自分が今できること
	県立利根実業高等学校	小池　可帆	2	私たちに出来ること
JRC 賞	県立高崎東高等学校	平舘　清楓	2	私にとってのＪＲＣ
	県立高崎東高等学校	小鮒　栄香	2	今までの振り返りとこれからできること
	前橋育英高等学校	樋口　陽日	2	コロナから学んだこと

学校奨励賞　受賞校（※学校奨励賞は応募総数、応募率等を基に決定しています。）

○小 学 校…前橋市立永明小学校、沼田市立利根小学校、館林市立第一小学校、みどり市立笠懸小学校、明和町立明和東小学校

○中 学 校…前橋市立第六中学校、伊勢崎市立宮郷中学校、太田市立北中学校、太田市立太田中学校、館林市立第四中学校、大泉町立南中学校

○高等学校…県立高崎東高等学校、県立伊勢崎工業高等学校、県立沼田高等学校、県立長野原高等学校、前橋育英高等学校

青少年赤十字「ポスター」コンクール入賞者

1st アンリー・デュナン賞（最優秀賞）

前橋市立
永明小学校
６年生
川野　智偉

伊勢崎市立
第一中学校
２年生
晴日　百福

県立高崎北
高等学校
２年生
淺川　美月

2nd 人道賞（優秀賞）

太田市立
宝泉小学校
６年生
石川　未来

前橋市立
永明小学校
３年生
中澤　玲衣

伊勢崎市立
第一中学校
２年生
熊谷　嘉人

伊勢崎市立
第一中学校
２年生
神田　七美

3rd JRC賞（佳作）

館林市立第一小学校
３年生　片野　優璃

館林市立
第六小学校
３年生
丸橋　希喜

館林市立第一小学校
６年生　佐々木　璃和

館林市立
多々良中学校
２年生
井野口　愛良

前橋市立
第七中学校
２年生
松本　圭生

伊勢崎市立
第一中学校
２年生
福地　杏純

伊勢崎市立
第一中学校
２年生
荻原　亜優

県立高崎東
高等学校
１年生
塚越　美穂

県立長野原
高等学校
３年生
田中　朝陽
１年生
山口　修真

県立高崎東
高等学校
１年生
貞包　莉愛